

人文科学コース3年生による「人文科学課題研究Ⅱ」英語発表会が開催されました！

●2学年次に行った研究の成果を英語で発表しました

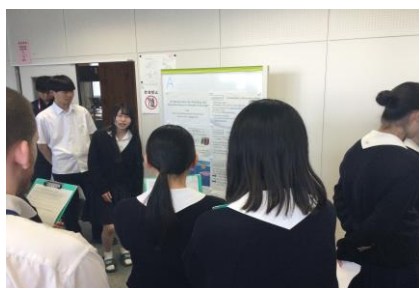
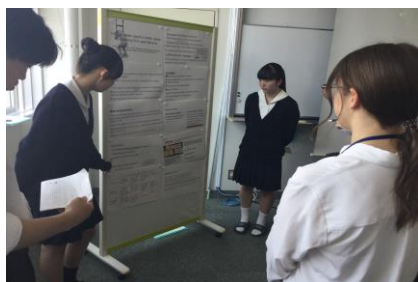
5月28日(水)、31H(人文科学コース12期生)の生徒による「人文科学課題研究Ⅱ」英語発表会が行われました。

発表会は近隣の高校のALTである、Samantha Darnin先生(大聖寺高校)、Frederick Lawrence先生(加賀高校)、Monay Threats-McNeil先生(小松商業高校)、Shandley Ebrahim先生(小松明峰高校)、Emily L. Templeton先生(野々市明倫高校)、及び本校所属のKataizah Johnson先生、Alan Thomas先生を審査員に迎えました。また、公立小松大学小原文衛教授にご参加してもらい発表会の講評をしていただきました。

31Hの生徒たちは2学年次に行った研究を、ALTの先生方に向けてわかりやすく説明する活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を高めることができました。また、人文科学コース13期生となる21Hの生徒も発表会を参観し、先輩の発表する姿を目の当たりにして、自分たちの研究に刺激を得るよい機会になりました。

以下に発表会の様子、各班のタイトル一覧を紹介します

●「人文科学課題研究Ⅱ」英語発表会の様子



●R7 Jゼミ(人文科学コース31H生徒)「人文科学課題研究Ⅱ」英語発表会テーマ一覧

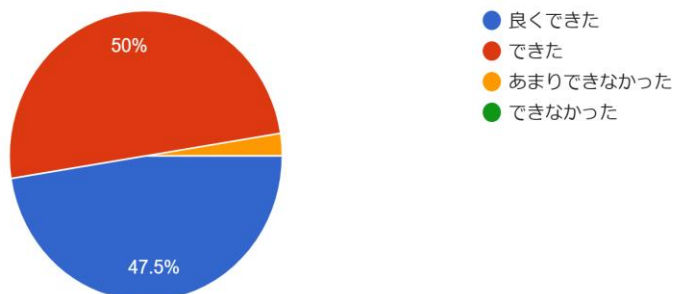
A	In Japanese-fairy tale Wild Pear, Did Miyazawa Kenji see himself as the crab?	F	The meaning of transformation in Sangetsuki
B	Reality of "Seisai" of Japanese Noble from Early to Middle Heian period	G	Transformation of Anime's Popularity in America in the Future
C	What make humans extroverted or introverted	H	How to make Japan a better place by learning from past failures
D	How to increase teens opinion of the EXP O 2025		
E	The Research into the Causes of being Stagnant and How to Make the Central Shopping Street Better		

●「人文科学課題研究Ⅱ」英語発表会振り返りアンケート

発表会の後、31H生徒たちに英語発表会（発表会までの準備、当日の発表等）における自己評価アンケートをとりました。以下にアンケート結果と生徒の感想を一部抜粋して掲載します。

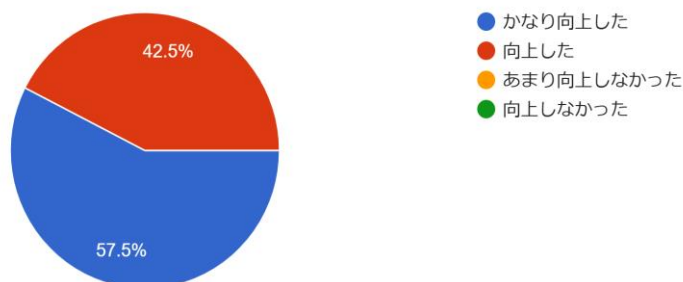
4.英語で質問したり、説明したりすることができたか。

40 件の回答



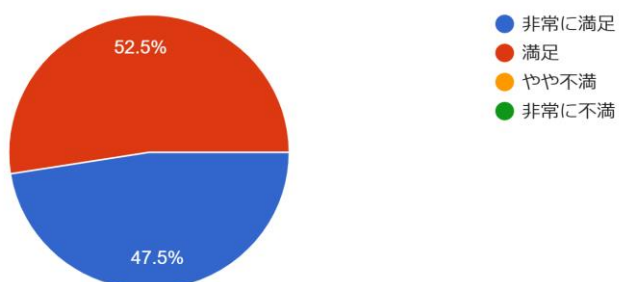
5.この活動を通して、英語でのプレゼンテーション能力が向上したか。

40 件の回答



6.発表全体の満足度

40 件の回答



●発表会をふりかえって（生徒の感想）

- ・ 時間内に発表ができた。また質問に対して答え、その答えに対して更に質問が来たときも答えることができた。
- ・ プレゼンの回数を重ねるたびにうまくなっていったし、質問にも答えられるようになった。しかし、質問することができなかったのでできるようになりたい。
- ・ 英語で会話する力を向上させるきっかけとなるとともに、自分たちの探究活動の成果を発揮する良い機会になった。
- ・ ネイティブの人と英語で話すことがなかなか無いので良い機会になった。
- ・ ALTの先生方から面白い質問が様々飛んできて、非常に有意義な時間が過ごせたと思う。